

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1番地		
自己評価作成日	令和5年10月8日	評価結果市町村受理日	令和5年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoCd=2192200034-00&SerVi.ceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がその人らしく暮らし続ける支援に向けてお一人お一人の思いや要望は何かと職員が日々把握することに努め、それぞれの利用者様のできる力を支えそれを維持できるよう、日常生活の中での楽しみや意欲を見出していただけるような支援をしています。コロナ感染予防対策として外出支援やご家族様との面会を制限しておりますが利用者様とご家族様との時間を大切に考え、また関係性を途絶えることなくそれぞれのご事情を踏まえた対応の仕方を検討し実施しています。また、看取りケアへの対応も行っており、住み慣れた環境の中で顔馴染みの同居者やスタッフに見守られながら最期の時間をご家族様と共に穏やかに過ごしていただけるよう支援しています。家族様アンケートやプラン原案についてなどご意見やご要望をいただく機会を設けており、ご意見等には真摯に受け止め次に繋げるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者が穏やかで健やかに笑顔のある暮らしを続けられるように取り組んでいる。利用者のペースや思いを大切に、行事・レクリエーション・入浴・食事においても利用者のその日の気分や体調に合わせて希望に沿うよう支援している。利用者の得意なことや出来る力を引き出して、洗濯物たたみ・食事の準備や片付けなどを一緒に行って感謝の気持ちを伝え、利用者との関係づくりにも努めている。各ユニットに看護師を配置し、協力医とも連携して利用者の体調管理を行い家族・職員の安心にも繋がっている。研修や勉強会など学ぶ機会が多く、研修内容は全員が共有してケアに活かすよう取り組み、質の向上を目指している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を月に一度のユニット会議の際に職員で唱和し、また施設理念の下にチーム目標を立てユニット内で毎日唱和している。目標を意識することで日々の支援の実践に繋げている。	理念を基に毎年ユニットごとに職員間で話し合っって目標を立て、日々の支援との整合性を毎月のケア会議で確認している。安全で安心した暮らしの持続を目指して、日々工夫しながら利用者一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が直接的に地域と触れ合うことは未だできてはいないが、事業所としては小学校で認知症サポーター養成講座を実施している。又海津市暮らしサポートセンターを通してフードバンクとの交流を行っている。	利用者参加の地域交流は控えているが、事業所として地区社協行事への出席や小学校での認知症サポーター養成講座を行っている。散歩時に出会った方との挨拶や農家から野菜をもらうなどの交流がある。駐在所や消防署の訪問もある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策として会議を見合わせ書面にて活動報告等を行っていたが、8月より対面での会議を再開し関係者の皆様の貴重なご意見をサービス向上に活かすよう努めている。	会議には、駐在所や消防署・近隣の老健施設からの参加もあり情報や助言を受けている。委員からの要望には、迅速に対応して次回の会議で結果報告をしている。書面会議から対面会議になって各委員からの思いが直に伝わり意義のある会議となっている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を対面式で開催する事により市町村担当者と顔馴染みの関係構築に努めている。電話での問い合わせなどにも心易く行えている。	担当者とは話しやすい関係を築き、電話やメールで連絡を取り合い情報をもらっている。書類など提出する際に事業所の状況を伝えている。社協開催のケア向上委員会にも出席している。補助金や制度に関することは、本社担当者が出向いて対応している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通して具体的な行為についての学びを行うと共に、委員会からのポスターの掲示や利用者様のケアの振り返りを毎月行っている。それにより身体拘束をしないケアを意識して常日頃より取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会の定期的な開催と研修を実施している。各自がチェックシートでケアの振り返りを行って取り組んでいる。不適切な対応があればその場で注意したり、場所を変えて指導している。勉強会で話し合っって全体の問題として周知するよう努めている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員共に施設内外の研修に参加するなど虐待防止に努めている。また毎月ケアの振り返りを行うことで職員それぞれが良いケアを目指して意見を出し合っている。学ぶ機会を持ち実践に繋げる事で虐待防止に努めている。	ユニット毎に会議の前にケアの振り返りやアンケートを行い、問題を上げて話し合い虐待行為の共通認識を持って虐待防止に努めている。管理者は、職員のストレス軽減が虐待防止に必要と認識し、過度な勤務にならないよう配慮している。	

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間予定してある勉強会にて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。関係者と連携を取り必要な支援をしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、利用者様・ご家族様の事情を踏まえた上での、十分な説明を行うよう心掛けてご理解を得るようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談窓口についての説明とポスターの掲示や年に一度家族様アンケートを実施し要望の把握をするなど、日頃より意見の言いやすい関係作りに努めている。	毎月、写真入りの便りで利用者の様子を知らせて要望や意見を聞いている。面会時や電話でも聞いている。家族アンケートを行い、家族との信頼関係を築くように努めている。リモートやガラス越しの面会から時間制限はあるが、玄関先で対面での面会を再開し利用者・家族の安心に繋げている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とのコミュニケーションを図り、ミーティングや個人面談等で意見を言いやすい環境作りに努めている。	管理者も現場に入り、日常の勤務中や会議で職員の意見や提案を聞いている。物品の購入や修繕などの要望は速やかに対応している。天候や利用者のその日の状態で日程を変更してお茶会にするなど職員の提案を取り入れている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の個々に合ったシフト調整や労働条件に応じたの諸手当の制度等、意欲的に働ける職場環境作りに努めている。	職員の家庭事情に配慮した勤務調整をし、連休や休暇の希望も取り入れて働きやすい環境の職場づくりに努めている。管理者は、職員が苦手とする業務や負担が多いと感じた時は、現場に入りフォローすることで職員のストレス軽減にも努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定に施設内外の研修予定を立て実施している。また、日常業務の中でケアの見直しや振り返りを行ったり、個人面談等で各自の力量を確認している。	管理者は、年間の研修計画を立て誰もが参加できるように知らせている。希望を聞いて勤務を組み公平に参加できるよう調整したり、力量に合わせた研修を進めたりしている。研修参加は、勤務扱いで費用の負担もある。内部研修や勉強会は全員が参加している。	

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所を訪問するなどの直接的な交流や勉強会は行えていない。ケア向上サービス連絡会に参加するようにして交流や学ぶ機会を作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできる力を活かして、新聞折やテーブル拭き、洗濯物たたみなどを依頼し、ホームでの暮らしに必要な事を一緒に行っていただき、職員は利用者様との関係作りにも努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でお一人お一人の思いや意向の把握に努め、職員間で情報共有を図ることのできるだけお一人お一人の意向に添うよう努めている。	利用者一人ひとりに合わせた問いかけをして思いを聞いている。事務所に来て話す利用者もいる。表情やそれまでの生活歴から思いを把握することもある。利用者の思いを叶える工夫をしながら穏やかな暮らしの支援に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、全員のモニタリングを実施しケア内容の振り返りを行っている。また課題があった時はその都度職員間で意見交換をしたり、ご家族様に相談し計画書にも反映させている。	毎月行うモニタリングとケア会議の意見、個別記録を基に本人・家族の希望を聞き介護計画を作成している。医師の意見を取り入れることもある。モニタリングや利用者の状態に変化があれば必要に応じて見直している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は計画書に基づいたケア提供を実践し、時には気づきや工夫したことを記入し、職員間で情報共有を図り必要に応じて計画書の見直しを行っている。	利用者の日々の様子や実施したケア、気づきや工夫を個別の介護記録に記載している。実施したケアを介護計画に基づいて記入するよう工夫しており、全員が介護計画を周知してケアをしている。個別記録をモニタリングや介護計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人様・ご家族様の状況に応じて施設での既存のサービスでは行えないニーズに対しても柔軟に対応することを心がけ実践している。車椅子のレンタルもその一つである。	従来使用の車椅子では対応できなくなった利用者に家族と相談して車椅子のレンタルを紹介した。車椅子使用者の受診の送迎を行ったり、救急搬送された時に家族が到着するまで付き添ったりしている。親族の告別式参列の支援もしている。	

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が地域との関係作りをすることで利用者が安全で楽しめる暮らしを提供できるよう努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や身体状況の変化時等、ご本人様やご家族様の希望を確認したり、連携についてご家族様に説明し安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	入居時に協力医に変更して訪問診療を受けている。専門医の受診は家族が付き添っているが、看護師が同行することもあり、車椅子を使用する利用者の送迎支援もしている。夜間の急変時は、オンコールの看護師に連絡して協力医の指示のもと対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院医療機関も面会制限があり、特に利用者様の精神的な負担が大きくなると予想されるため、早期に退院できるよう病院関係者との連携を密にするよう努めたい。	利用者の入院時は、看護師が付き添いサマリーで情報を伝えている。家族から経過を聞き、病院関係者と電話で連絡を取り合っている。退院前のカンファレンスで申し送りや事前準備、ケアの対応など話し合いながら利用者が安心して戻れるように取り組んでいる。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、終末期に向けたケア方針を説明すると共にご本人様、ご家族様の意向を確認した上で、かかりつけ医とも密に連携を図りながら支援に取り組んでいる。	入居時に事業所の方針を説明している。利用者の状態に応じて医師か看護師から家族に説明して、意思の再確認と今後の方針を話し合いながら情報を共有して取り組んでいる。最期を家族と一緒にすごせる支援もしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会の実施や日頃の応急手当の場面で直接職員へ指導し、実践力を身に付けている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、水害時の訓練をそれぞれ年2回、様々な想定の下、職員と共に実施している。また地域との協力体制を築ける機会あるたびにお話している。	夜間想定を含む年2回の避難訓練の他に水害時の訓練も実施している。訓練後には、消防署のコメントや反省、課題を話し合っている。地域の方には、折に触れ協力依頼をし、自治会長から「声をかけてもらえれば助けに来ますよ」と言われている。備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての敬いの心を持って接するように心がけている。入浴やトイレ介助時、プライバシーに配慮した介助を心掛けている。	利用者一人ひとりに合わせた言葉づかいや対応に心がけている。排泄や入浴支援時はカーテンや扉を閉めプライバシーに配慮している。不適切な対応があればタイミングを見て注意したり、全体の問題として勉強会で話し合っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と落ち着いた会話ができる環境づくりを心掛けている。トイレへ自由に行ったり、様子を見て誘導するなど、利用者様の自己決定を尊重し介助を行っている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気分や体調に合わせて行事などに参加して頂いている。個々の生活リズムを把握し入浴や外気浴などの声掛けを行っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助を行う際は個々のペースに合わせた介助を行うよう努めている。また個々の力量に応じて野菜の下ごしらえやコップなどの下膳をして頂いている。	要望をその日のメニューに入れることもある。準備や片付けなど一緒に行っている。誕生日にケーキを作ったり、行事に弁当をとったりして楽しんでいる。食事形態や利き手に合った食器、食卓の高さを調整するなど自分の力で安全に楽しく食事ができる工夫をしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分摂取量を記録し情報共有し無理の無いところで摂取量の確保を図っている。また通常の食事では栄養が取りにくい利用者様には医療者と連携し、栄養補助食品等で対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後は必ず口腔ケアの声掛けを行いその方に合った方法で口腔ケアを実施している。また、月に一度の専門職が行う勉強会にて口腔内の清潔保持については学習する機会を経て実践に繋げている。	毎食後の口腔ケア以外にも起床時やおやつ後にもうがいをして口腔内の清潔保持に努めている。一人でを行う利用者には、見守りながら出来ていない部分を支援している。毎月、歯科衛生士の勉強会に出席して口腔ケアの大切さを理解して取り組んでいる。	

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録より排泄パターン、量の確認をし、状況に応じたオムツやパットを使用している。夜間のみオムツ対応の方でも日中はトイレで排泄をして頂けるよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	タイミングを見計らって声かけをし、利用者様の思いに添って対応している。入浴の曜日や時間はおおよそ決まってはいるが利用者様の状況によっては午前から午後に変更するなど個々に応じた支援を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた対応をしている。日中は休息できるよう声掛けを行い希望される方は居室誘導し休んで頂く。就床前には習慣となっている排泄支援を行う。室温や湿度、採光などの安眠のための環境整備を行い支援している。夜間は体位交換等適時行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を介護記録のファイルに綴じいつでも確認できるようにしている。内容変更時は申し送りノートを活用しその都度対応している。服薬支援は職員2名で確認し誤薬防止に努めている。また日頃から個々の状態観察を行い、変化の確認に努めている。	職員は、薬剤情報で利用者の薬の内容を理解している。副作用については、看護師からも説明している。服薬時は名前や日にちなどのダブルチェックをして服薬後は、薬袋を確認して誤薬や飲み忘れがないよう支援している。服薬後の利用者の様子にも注意を払っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクへの参加や誕生日会を行う等日々の暮らしの中で楽しみが見出せるよう取り組んでいる。また、おしぼりたたみや洗濯物の片付け、新聞折等役割意識を持てるよう働きかけている。	お茶会や誕生会などの行事を毎月計画し、パズルやカラオケ・作品作りなどレクリエーションにも工夫して楽しみのある生活を支援している。洗濯物干しやたたみ・食事の準備や片付けなど役割が持てるよう声かけをして一緒に行い感謝の言葉を伝えている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策として外出支援は控えている中で苑庭でのお茶会や日光浴、近隣の散歩などで外気に触れる機会を作っている。	敷地内や近所に散歩に出かけたり、庭でお茶会をしたりして外気に触れて気分転換を図っている。帰宅願望の強い人と家を見に行くこともある。コロナ禍で喫茶店や遠出の外出を控えていたが、徐々に外出をして利用者の笑顔が見られるようにと考えている。	コロナ禍前のように、利用者の希望に合わせて喫茶店や季節を楽しめるような外出をしたいという思いを実現されることを期待したい。

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出を控えている中で実際にお金を使う場面が持てないこともあり、ご家族様とのご相談内容においてもお金の所持については行っていない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の発言や表情などからご家族様への思いや要望を電話やお手紙で代弁してお伝えしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては可能な範囲で温度を一定に保ち、採光等気候や季節に応じて対応している。危険となる物は除去し、安全な空間作りに努めている。	玄関やリビングには、利用者と一緒に作った季節の作品を飾っている。換気や各所の消毒をこまめに行い、利用者に合わせた室温調節にも配慮して感染対策をしながら快適に過ごせるようにしている。気の合った利用者が一緒に過ごしたり、日光浴が出来るように窓際にソファを置いている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き自由にくつろげるよう配慮している。また顔馴染みの方と隣同士となるよう席の配置を工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の動線に配慮したり、家族の写真や時計を置き、必要な方には家族様にテレビを用意していただくなど、ご本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にネームプレートを置き、ご自分の部屋が認識できるようにしている トイレには安全バーを設置するなど自立に向けた支援ができるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1番地		
自己評価作成日	令和5年10月8日	評価結果市町村受理日	令和5年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2192200034-00&SerViceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を月に一度のユニット会議の際に職員で唱和し、又施設理念の下にチーム目標を立てユニット内で毎日唱和している。目標を意識することで日々の支援の実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が直接的に地域と触れ合うことは未だできてはいませんが、事業所としては小学校で認知症サポーター養成講座を実施している。又海津市暮らしのサポートセンターを通してフードバンクとの交流を行っている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策として会議を見合わせ書面にて活動報告を行っていたが、8月より対面での会議を再開し関係者の皆様の貴重なご意見をサービス向上に活かすよう努めている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を対面式で開催する事により市町村担当者と顔馴染みの関係構築に努めている。電話での問い合わせにも心易く行っている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通して具体的な行為についての学びを行うと共に、委員会からのポスターの掲示や利用者様のケアの振り返りを毎月行っている。それにより身体拘束をしないケアを意識して常日頃より取り組んでいる。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者、職員共に施設内外の研修に参加するなど虐待防止に努めている。また毎月のケアの振り返りを行うことで職員それぞれが良いケアを目指して意見を出し合っている。学ぶ機会を持ち実践に繋げる事で虐待防止に努めている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間予定してある勉強会にて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。関係者と連携を取り必要な支援をしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、利用者様・ご家族様の事情を踏まえた上での十分な説明を行うよう心掛けてご理解を得るようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談窓口についての説明とポスターの掲示や、年に一度家族様アンケートを実施し要望の把握をするなど、日頃より意見の言いやすい関係作りに努めている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とのコミュニケーションを図り、ミーティングや個人面談等で意見を言いやすい環境作りに努めている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の個々に合ったシフト調整や労働条件に応じたの諸手当の制度等、意欲的に働ける職場環境作りに努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定に施設内外の研修予定を立て実施している。また、日常業務の中でケアの見直しや振り返りを行ったり、個人面談等で各自の力量を確認している。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所を訪問するなどの直接的な交流や勉強会は行えていないが、ケア向上サービス連絡会に参加するようにして交流や学ぶ機会を作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできる力を活かして、新聞折やテーブル拭き、洗濯物たたみなどを依頼し、ホームでの暮らしに必要な事を一緒に行っていただくなど、職員は利用者様との関係作りに努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でお一人お一人の思いや意向の把握に努め、職員間で情報共有を図ることによってできるだけお一人お一人の意向に添うよう努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、全員のモニタリングを実施しケア内容の振り返りを行っている。また課題があった時はその都度職員間で意見交換をしたり、ご家族様に相談し計画書にも反映させている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は計画書に基づいたケア提供を実践し、時には気づきや工夫したことを記入し、職員間で情報共有を図り必要に応じて計画書の見直しを行っている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人様・ご家族様の状況に応じて施設での既存のサービスでは行えないニーズに対しても柔軟に対応することを心がけ実践している。車椅子のレンタルもその一つである。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が地域との関係作りをすることで利用者が安全で楽しめる暮らしを提供できるよう努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や身体状況の変化時等、ご本人様やご家族様の希望を確認したり、連携についてご家族様に説明し安心して適切な医療が受けられるよう支援している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院医療機関も面会制限があり、特に利用者様の精神的な負担が大きくなると予想されるため、早期に退院できるよう病院関係者との連携を密にするよう努めたい。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、終末期に向けたケア方針を説明すると共にご本人様、ご家族様の意向を確認した上で、かかりつけ医とも密に連携を図りながら支援に取り組んでいる。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会の実施や、日頃の応急手当の場面で直接職員へ指導し実践力を身に付けている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、水害時の訓練をそれぞれ2回、様々な想定の下、職員と共に実施している。また地域との協力体制を築けるよう機会あるたびにお話している。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ご利用者様」ということを常に念頭に置き敬語を心がけ、まずはご利用者様の意見を聴きその方に合った対応でお応えをしている。また、排泄等は羞恥心に配慮し、居室での方は入り口の戸を閉め行っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いが話せるよう、時には敬語を少し崩してお話をしたり、衣服等選ぶ時は選びやすいよう「これとこれはどちらが良いですか」と提案するなどしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	立ち話をされている方には座ってゆっくり話していただけるよう声掛けをしたり「今日は○○と○○のどちらをやりましょうか」等の声掛けをし選べるようにしている。「やりたくない」と言われる方には無理に勧めない。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい食事形態や食器もその方に合ったものを用意し、盛り付けもその方に合うように工夫している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない方には1日を通して少しでも飲んでいただけるよう声掛けを行い提供している。また栄養面では看護師と常に相談しながらお一人お一人に合った食事形態、量、補助食品などを提供し、ユニットスタッフ全員が情報共有しその都度見直したりしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後は必ず口腔ケアをして頂けるよう声掛けをし、介助が必要な方は介助にて行っていただく。また介護記録のチェック表にはどのスタッフが介助したかわかるよう記名し、各自が責任を持って行っている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の介護記録をもとに個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導やパットの選択をしている。訴えがある時は速やかに対応している。自立した方でも何かあれば呼び出しコールを使用していただき対応している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間はほぼ決まっているが個々のタイミングを見て声掛けしている。また拒否がある場合は時間を置いて声掛けをするなどしている。入浴後「気持ちよかった」と言ってもらえる入浴を心掛けている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就床前にはトイレに行っていただくなどゆっくり休めるよう配慮している。日中も利用者様の様子を観察し、疲れているようであれば声掛けをし休んで頂くようにしている。またその際、室温、湿度、採光などに配慮し休息や安眠ができる環境づくりを心掛けている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬提供前必ず2ステップでの確認を経て服薬支援を行っている。併せて服用後の薬袋を残し残薬が無いかのチェックも行い、確実に服薬が出来るようにしている。副作用については看護師からの説明があり、服用後の利用者様の様子に注意を払うなど変化の確認に努めている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今は塗り絵をされる方がいないためパズルやカラオケで楽しんでいただいている。また一ヶ月に一回は行事を行い楽しんでいただくようにしている。布たたみや新聞折等、個々にできる事を「〇〇やっていただいてよろしいですか」と声掛けしやっています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出支援は控えているため、苑庭でのお茶会や、近場の散歩などを行い、少しでも外の空気に触れ気分転換を図れるようにしている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の思いを大切にし、その方の力に応じて支援しよう心掛けている。現状、外出支援を控えている中、具体的な支援は出来ていない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる方には取り次ぐなどの支援を行っている。ご家族様から届いた暑中見舞いや誕生日のプレゼント、年賀状などを目の届く場所に置いている。また利用者様の思いを代弁してご家族様へお伝えしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベントの写真を飾ったり共通の思い出を話したりできるよう目に入りやすい場所に展示している。また季節に合った飾りつけをするなど、一年を通して温度や陽射し以外でも季節を体感できるようにしている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基準となる席は決めてはあるが、その日の個々のコンディションや状況によっては席を移動したり、また時間によって日光浴ができる場所にソファを置くなどの工夫をしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がご自宅で使用していた物や家族写真等を置き、ご自分の部屋だと思える空間づくりに努めている。ご家族様に相談してテレビを設置するなど、できるだけ居心地よく過ごしていただくよう工夫をしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはネームプレートがかけられている。またトイレにもわかりやすく大きな文字で表示している。廊下やリビングは歩きやすいよう危険物等は除去し安全に自立した生活が送れるよう工夫をしている。		